



C2021-02 涙の皮袋

[今月の聖書]

詩篇 (56 篇前文 1-4, 8)

56:1 神よ、どうかわたしをあわれんでください。人々がわたしを踏みつけ、あだする人々がひねもすわたしをしえたげます。 56:2 わたしの敵はひねもすわたしを踏みつけ、誇りたかぶって、わたしと戦う者が多いのです。 56:3 わたしが恐れるときは、あなたに寄り頼みます。 56:4 わたしは神によって、そのみ言葉をほめたたえます。わたしは神に信頼するゆえ、恐れることはありません。肉なる者はわたしに何をなし得ましようか。 56:8 あなたはわたしのさすらいを数えられました。わたしの涙をあなたの皮袋にたくわえてください。これは皆あなたの書に／しるされているではありませんか。

ヤコブ(4:10)

4:10 主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであろう。

黙示録(21:3-4)

21:3 また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、 21:4 人の目から涙を全くぬぐいとして下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のが、すでに過ぎ去ったからである」。

ルカ(7:37-38)

7:37 するとそのとき、その町で罪の女であったものが、パリサイ人の家で食卓に着いておられることを聞いて、香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、 7:38 泣きながら、イエスのうしろでその足もとに寄り、まず涙でイエスの足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐい、そして、その足に接吻して、香油を塗った。

マタイ(26:37-39)

26:37 そしてペテロとゼバダイの子ふたりとを連れて行かれたが、悲しみを催した悩みはじめられた。 26:38 そのとき、彼らに言われた、「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、わたしと一緒に目をさまさない」。 26:39 そして少し進んで行き、うつぶしになり、祈って言われた、「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」。

お元気で過ごしてはいかがでしょうか。今月のテーマは「涙の皮袋」です。「あなたは私のさすらいを数えられました。私の涙をあなたの皮袋に蓄えてください」(8 節)詩篇 56 篇にのみ出てくる表現です。“put thou my tears into thy bottle”(v8)英語訳では必ずしも皮袋ではありません。涙の壺と訳したほうが良いでしょうか。中東の美術館には涙の壺と言われる陶器がたくさんあります。戦場に行った夫を悲しみ、妻がその涙を壺の中に注いだと言われる物語があります。涙の壺あるいは皮袋と言われる表現は、人生の苦しみから流れ出る涙を、神が受け止めてくださるという意味です。人はだれでも自分の名前をつけた壺を神様の手の中に預けているのかもしれませんが。そして悲しみの涙を流すたびにその壺が満ちてくるのです。

イエス・キリストが十字架にかけられる前に、ある家で食卓についていた時に、一人の女が近づいて涙を流しながらその髪の毛で足を洗ったという美しい記事があります(ルカ 7:36-50)。彼女の涙の壺は長い苦しみと葛藤の中で満ちていましたが、イエス・キリストに出会ったときにそれを全て注ぎ出すことができたのです。その時彼女の人生は解放され、新しい愛に満たされ、まことの幸せを見出しました。聖書に示されている救いとは、私たちの人生のあらゆる苦難から生じた涙を全て注ぎ出して、解放されることなのです。それはイエス・キリストが十字架上で示して下さる救いの道です。

詩篇 56 篇は先月の 34 篇とともに、ダビデが敵陣に捕虜となり全く助かる希望のなかった時、ひたすら神様により頼んで奇跡的に救われた時に書いた詩です。彼の深い涙の経験が私たちの救いの道を示唆しているのです。あなたの人生にもこのような決定的な解放の時が来ますようにお祈りしています。

小田 彰

「家族の救いのために祈る」

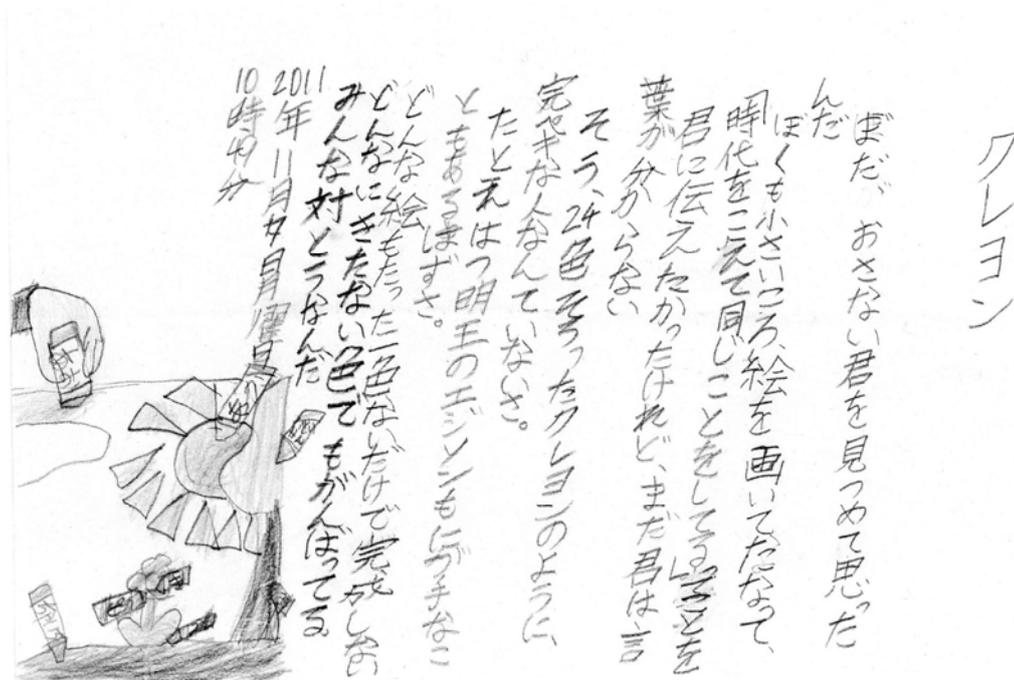
玉利カヨ子（宮崎県）

16年前のことです。徳島県に住む娘が電話で孫が手術を受けなければならないと知らせてきました。当時1歳4ヶ月でした。呼吸困難で苦しんでいた時、咽下に腫瘍が見つかりました。徳島大学附属病院でMRIを撮りましたがあと1週間の命と言われました。私は牧師先生に祈って頂き、徳島に飛びました。2ヶ月にわたる昼夜わかたぬ死闘の結果、呼吸ができるようになり、手足が動かせるようになりました。3ヶ月目には第二回の抗がん剤投与が始まり10回に及ぶ投与の後やっと言葉が話せるようになりました。ある日、隣のベッドの子供が泣いていると「一緒に頑張ろうね」と声をかけていたのです。今年18歳となり大学生となりました。

「苦しみに会った事は私に良いことでした。これによって、私はあなたのおきてを学ぶことができました。」（詩篇 119:71）

この孫が私の家に来て描いていた詩があります。この子の命の中に聖霊が注がれて必ず神様を賛美する日が来ると感じているこの頃です。

開業医であった夫がなくなり、後を継いだ息子も難病のため継続できず閉院しています。次から次へと病気との戦いの中に涙の谷を歩いています。しかしこれらのことを通して神様の前にへりくだり、信仰を持って謙虚に生きるようにと神様が導いてくださるのだと気が付き始めました。そして必ず神様に愛される信仰の家族ができると信じて祈っている昨今です。



(お知らせ)

新型コロナの感染拡大が止まらず、緊急事態宣言が出されている現状ですので、水曜礼拝や地区集会は当分の間休会といたします。どうかホームページやYouTubeからの情報や動画をご覧ください。またテレフォンサービスでもメッセージをお送りしています。皆様の上に、このような時だからこそ深い神の恵みが注がれますようにお祈りしています。